

---

# 消えない傷 = 消えない罪

瑠依

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

消えない傷Ⅱ消えない罪

### 【Nコード】

N4963A

### 【作者名】

瑠依

### 【あらすじ】

妊娠と中絶：中絶という言葉があまりにも氾濫すぎた世の中で私が体験したほぼ実話です。女性にしか実際は分からない事です。男性にも是非読んで頂きたいと思います。今一度命の重さとは？と考えてみてください。

## 1・真逆の決断

今日も空は青い私の心は決して晴れることはないのに…

テレビCMに赤ちゃんが出てくる度に涙が溢れてとまらない  
私はいつまでもこの罪に縛られていくのだろう…

薄暗く冷たい手術室に一步足を踏み入れた時足がすくんで動けなかった

私がこれから犯すのは殺人  
それは紛れもない事実だった…

『ねえ…妊娠したんだけど…』  
いくらか戸惑いのある表情で告げる唇が震えている

『あ…そう』  
驚きに目を見開いて明らかに動揺している

大の男が情けない…心底そう思った…

『ああこれは無理だ』  
少しの期待を込めて重大事実を告げた私は絶望の淵に落とされた。

『墮ろす?』

精一杯の強がり

涙はもうそこまで来ている目蓋の裏をしきりにノックしている

ヤメテ…

出てこないで…

『ごめん…だって産んでも生活できない…そんな金お互いないだろ？』

『そうだね、お互いの責任だしね…お金は半々でいいでしょ？』

『…』

重苦しい空間に沈黙が痛い

もう限界だ…

『じゃあね、手術の日はメールする』

人もまばらになった深夜のファミレス

コーヒーのみの伝票に手を伸ばしたとき手の甲に一粒涙が落ちた  
足早にレジに伝票と千円を置いて走りだす

溢れだしたものは止まらない、後から後から…

マスカラに汚された黒い涙が頬を伝う

軽い気持ちで手にした検査薬。指し示すのは陽性の赤いシルシ

その瞬間に芽生えた喜びと少しの母性

【私の中に命がいるんだ】

分かった瞬間からあれだけ止められなかった煙草も止めた。  
高いヒールも止めた。  
頭の中はそれでいっぱいだった。

こんな事になるなんて…

浅はかな自分を心底憎んだ

この子を殺すなら一緒に死のう…そう思った

どうやって家に帰り着いたか記憶がない。

気付けば私の左腕は血にまみれていた。痛みなんて感じなかった。  
血が流れたすのに比例して涙もとめどなく流れ続けた。

ドクドクと血が溢れてゆくのに同調するかのように体中が脈打つ

『寒い…』

ゆっくりと床に傾れ込む

『ママと一緒にいこうか』これでずっと永遠に一緒だ  
嬉しかった…

遠退く意識の中でお腹に手を当ててわが子の存在を確かめるかの様に眠りに着いた…

## 2・罪の幻

深い深い沼に沈んでゆく様に意識が下降してゆく

ああ私死ぬんだあ…

他人事のように客観的な目線で呟いた

暗い暗い広い広い空間にたたずむ私の前にぼんやりとした光が現れた

5歳位の男の子

青いＴシャツに小さな子供用のジーンズを履いて寂しそうに俯いていた。

『君は誰？』

腰を屈めて視線を合わせるように問い掛ける。

その子はゆっくりと顔を上げて真っすぐに私を見る。【アイツによく似てる…】

茫然とその子の顔を見ることしか出来なかった

『一緒なんて嫌だよ』

『え…？』

『死ぬのは僕だけでいいんだ。ママと一緒に死ぬなんて僕は嫌だ！』

バットで殴られた様な衝撃だった。

一瞬、言葉の理解が出来なかった。

まさか自分がよくあるドラマのワンシーンの当事者になろうとは…  
それと同時に得た確信。

この子は私の子供

何年か後のこの…今は豆粒ほど卵でしかないこの子の姿。

芽生えるいとおしさと罪悪感

真つすぐに私を見つめる瞳の美しさに動きを止められたようだった。  
喉がカラカラで上手く声が出ない。

『私はあなたを産んであげられないの…その勇気がなかったの…でもあなたと一緒に居たいから、あなたとずっと一緒に居れる方法はこれしか分からなかった…最低なママだよ…ごめん、ごめんね…』  
涙が溢れて言葉にならない何度謝っても足りない。

私はただ自分のエゴを正当化しただけだったんだ  
この夢もきつとそうだ…縋り付くようにその小さな肩を抱き締める。  
ちゃんと柔らかい感触も温もりもある。

その子はただ寂しそうに悲しそうに私を見つめるだけ。 どうすれば  
いいのか分からない…

ただ今はこの子がとても愛おしい…

『僕は死んじやってもいいんだよ…またママの所に飛んでくるから。  
ママが死んじやったらもう僕はママの所にこれないんだよ。だから  
ママは死なないで。』

『ママって呼んでくれるの？…私を…』

『だってママはママだもん。僕のママはママしか居ないもん』

心の中で声にならない謝罪の言葉が反芻している

『パパ泣いてたよ？』

『え…？』

『パパずっと泣いてたよ。ごめんな、ホントはお前に会いたいよ。でも今はお前もママも不幸にしてしまうから…って』

アイツはパパなんかじゃない。ハッキリとした事も言わず決断もなくあなたを否定した男。

許せなかった

『産んでほしい』と言ってほしかった…

でも一人でも産む決意が出来なかった私も同じだね。あいつの事とやかく言える立場ではないんだ…

私の罪悪感が生み出した幻か夢を目の前に私はただただ泣くことしか出来なかった。

『泣かないでママ…僕は大丈夫だよ。ママは幸せになって。ほらパパが来たよ。泣かないで、僕がいなくなる時まで笑っていてね』

徐々に薄くなるわが子の姿

【消えちゃう…】

『待つて！行かないで！一人にしないで！』

『ママは一人じゃないよ。パパもいる。僕もずっと見てるから』

笑って消えてゆく



初めて見れた笑顔

その姿は薄く薄く小さな光になり私のお腹に消えていった

『行かないで…』

空になった腕の中

遠くで声が聞こえる

そしてまた私の意識は遠ざかっていった…

『行かないで…』

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4963a/>

---

消えない傷 = 消えない罪

2010年12月5日05時53分発行